

平成 30 年 6 月 22 日現在

機関番号：23901

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26370769

研究課題名(和文) 日本中世仏教成立史にみる意志的普遍思想の形成

研究課題名(英文) Formation history of Japanese medieval Buddhism and formation of willful universal thought

研究代表者

上川 通夫 (KAMIKAWA, MICHIO)

愛知県立大学・日本文化学部・教授

研究者番号：80264703

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：日本史における中世の成立史を10世紀から12世紀にたどった。その重要な特徴は、仏教の全社会的な組み込みであると判断した。その上で、国家宗教や政治宗教として発達した日本中世仏教の圧倒的威力を確認しつつ、それらに抗して獲得されはじめた普遍的思想について、文献史料から見出す研究を実施した。日本中世の国家宗教としての仏教の確立は、東アジア世界の激動に影響されつつ、権力事業としてなすとげられた。いっぽう、民衆の生活世界では、地縁によって自立化をめざす新しい村づくりが進展し、自覚的に平等・結集・平和が求められ、その手がかりが仏教に求められ始めた。以上の点を、文献史学の手法によって、例示的に論じた。

研究成果の概要(英文)：Following the history of the formation of the Middle Ages from the 10th century to the 12th century. Its important feature was that Buddhism was totally incorporated into society. First of all I confirmed the overwhelming power of Japanese medieval Buddhism developed as a national religion and political religion. On the other hand, I explored the universal thought that began to be acquired against them. The medieval Buddhism of Japan was established as a national religion, which was influenced by the turbulence of the East Asian world, and was settled by the power policy. On the other hand, in the people's living world, the development of new villages aiming for self-reliance by neighborhoods has progressed, requiring subjective equality, mobilization and peace. And in the 12th century the people started seeking their clues to Buddhism. The above points are exemplarily discussed by the method of document history.

研究分野：日本中世史

キーワード：日本中世 仏教 山寺 東アジア 普遍思想

### 1. 研究開始当初の背景

(1) 日本中世仏教形成史を論じた単著論文集『日本中世仏教形成史論』(2007年) 中世仏教史研究の基礎史料分析の方法的開拓を目指した単著論文集『日本中世仏教史料論』(2008年) 東アジア世界における日本中世仏教形成史を論じた単著論文集『日本中世仏教と東アジア世界』(2012年) 以上の系統的な研究を踏まえ、研究対象の拡大と深化を実現させる方法として「日本中世仏教成立史にみる意志的普遍思想の成立」に狙いを定めた。

(2) 2010年度-2013年度に受給した科学研究費・基盤研究(C)「東アジアにおける大蔵経的世界の形成と日本中世」の最終年度において、本研究課題を構想した。特に、普門寺(愛知県豊橋市)における文献調査の過程で、中世の山寺についての研究に手がかりがあることに気づいた。

### 2. 研究の目的

(1) 日本中世仏教成立史を日本中世成立史の問題として考察するものである。仏教史を便宜上の分野史として他の局面と切り離さず、日本中世史そのものとして実施することを目的とした。

(2) 東アジア世界の中の日本中世形成史論と列島社会内在的な日本中世形成史論に目配りし、12世紀の歴史的達成を世界史上に位置づけることを目的とした。

### 3. 研究の方法

(1) 本研究では、二つの視野とその統合を構想した。一つは、東アジア世界論を踏まえた日本中世成立史研究に際して、唐・宋といったいわゆる漢族中国に視野を限定せず、朝鮮半島はもとより、遼・金・西夏といった遊牧族の歴史動向を視野に入れることである。このことは、連動推移する歴史的な世界についての視野を拡げ、東アジア世界にとどまらな

い広域世界との関連を展望する試みである。少なくとも仏教史を見渡すならば、南アジアのインドや中央アジアなどとの関連を探究する必要があると考えたからである。

(2) もう一つは、日本列島諸地域の生活者住民が仏教を導入・獲得する過程について、歴史的な条件、生活者自らの必要水準、価値観・意思を伴う主体的な行動、という次元での史実探究を目指すことである。国家宗教として圧倒的威力を発揮した中世仏教に対峙する民衆の営みは、地縁社会の形成を軸とする生活世界深部の変動を迎えた12世紀前半頃に、新しい理念を求めつつ漸進したのではないかと考えたからである。

(3) 以上二つの視野は、歴史的に見出された普遍思想の獲得に焦点を当てることで、統一的に理解することができる。紀元前5,4世紀の南アジアに発した仏教がユーラシア世界の東部で受容されたことと、深部の社会変動期を迎えた日本列島民衆が自立のよりどころとして没権力的・超越権威的な仏教を求めはじめたこととは、歴史的な脈絡における接点がある。

(4) 日本中世仏教の中に含まれる普遍思想を見極め、文献によって実証する課題を据えた。「和合」「一味」などの文言に注意し、平和・平等・人権という概念の表出を探った。特に注目した具体的対象は、山寺である。研究史上はやや特殊な存在と見なされがちだが、ここには東アジア仏教の最新動向が届いており、同時に里山を必要とする山麓民衆との密接な関係があるとの手がかりをもった。普門寺(愛知県豊橋市)の文献調査で得た知見を基礎にしつつ、愛知県史や三重県史の編纂に関わって得た情報をはじめ、自治体史史料編を活用しつつ、必要な現地踏査を行った。

### 4. 研究成果

(1) 広域アジア世界において日本中世成立史をたどる試みとして論文「北宋・遼の成立と日本」(図書 )その他を執筆した。遊牧族国家たる遼・金を視野に入れ、諸民族の接触・対抗が、権力による世界宗教たる仏教の導入策と政治統合策に結びつくことを論じた。また、『大般若経』の受容史を例に、インド、中央アジア、中国を經由した仏教が日本中世の地域社会においても積極的に担われていることを、文献調査に基づいて論じた(図書 )。

(2) 中世民衆が意志的に導入した仏教思想について、具体例を挙げて論じた。「永暦二年永意起請木札をめぐって」(雑誌論文 )において、12世紀の起請文に百姓の「天」意識を見いだした。『平安京と中世仏教』(図書 )では、戦争と飢饉が深刻化した12世紀に、生存の意味を問いかける民衆の姿を見いだした。また、人としての生存を仏教思想に託して宣言せざるを得ない、権力者側の動きにも注目した。中世民衆が生活実感から要請して主体的に担った仏事について、古文書・古記録・美術史料から見いだした(図書 )。

(3) 中世の山寺に注目し、本研究課題の重要対象として分析・論述した。中世の山寺は、最新の大陸仏教動向の摂取拠点であり、同時に山寺間ネットワークを列島内に形成していた(図書 )。また山寺が膝下の民衆生活世界に支えられる構造が10世紀後半ごろから形成されはじめ、12世紀には各地に成立する。百姓身分の獲得、生活と経営の単位としての小家族の自立、地縁村落の形成、それらの達成を将来に向けて安定させる民衆意思が、仏教の「和合」思想に求められた。その具体事例を三河国・尾張国・伊勢国に確かめた(雑誌論文 、図書 )。

(4) イベリア世界での国際学会における研究

報告を機会に、本研究課題を、前近代におけるグローバルヒストリーに結びつける手がかりを得た。2017年に、ポルトガル・ミーニョ大学で“Manifestation of People's Will in the Medieval Japan: The Modality and Thoughts” (英語、2018年に出版予定)を、スペイン・王立立法院で“Manifestación de ideas democráticas en la historia del pueblo del Japón medieval” (通訳、2018年5月発刊)を、それぞれ報告した。この2報告では、日本中世の一揆をめぐって、百姓が意思と要求を説得的に示した訴状類を素材に、平和・平等・人権についての自覚的表現が見いだされる例として論じた。イベリア世界での研究報告は、世界史ないし人類史において普遍思想を考察する試みとなった。また、ユーラシアの両端における、西ゴート王国とヤマト国家の成立以来のグローバルヒストリーを念頭に置き、従来の西ヨーロッパとの比較史や東アジアとの連動史に加えて、新しい視点を模索した。

#### (5) 課題の発見

近代思想より以前、大航海時代以前について、民衆が普遍思想を意志的に獲得しはじめたことを、本研究によって確かめた。今後、不殺生、慈悲、和合、平等、人権などの普遍的思想をめぐる史実を自覚的に探究し、それらを世界史上の諸史実と結びつけ、歴史的に位置づけるという研究課題が浮上した。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計7件)

上川通夫、Manifestación de ideas democráticas en la historia del pueblo del Japón medieval、Legislación militar hispánica [Ejércitos, Armadas y Fuerzas y Cuerpos de Seguridad]、査読有、2018、257-269

上川通夫、山寺における文字文化の形成と  
発見 三河国普門寺の文化遺産、説話文学  
研究、査読有、52、2017、49-60

上川通夫、撰関期仏教の転回、愛知県立大  
学日本文化学部論集(歴史文化学科編)、査  
読無、8、2017、89-108

上川通夫、東大寺僧裔然と入宋僧裔然、  
ザ・グレートブッダ・シンポジウム論集、査  
読無、15、2017、99-110

上川通夫、古代・中世前期の普門寺、豊橋  
市埋蔵文化財調査報告書、査読無、141、2016、  
110-123

上川通夫、中世山寺の基本構造 三河・尾  
張の例から、愛知県立大学日本文化学部論  
集(歴史文化学科編)、査読無、6、2015、  
1-22

上川通夫、永暦二年(1161)永意起請木札を  
めぐって、木簡研究、査読有、36、2014、  
223-244

〔学会発表〕(計10件)

上川通夫、源信と撰関期日本、奈良国立博  
物館夏季講座、招待講演、奈良県文化会館、  
2017年

上川通夫、Manifestación de ideas  
democráticas en la historia del pueblo del  
Japón medieval、スペイン・王立法院 CONGRESO  
INTERNACIONAL La Legislacion Militar  
Historica、招待講演、2017年

上川通夫、Manifestation of People's Will  
in the Medieval Japan: The Modality and  
Thoughts、ポルトガル・ブラガ市ミーニョ大  
学 Relacoes entre a Peninsula Iberica e o  
Japao: do seculo XVI aos dias de hoje  
Coloquio、2017年

上川通夫、入宋僧裔然と南都仏教、第15  
回ザ・グレートブッダ・シンポジウム、招待  
講演、東大寺総合文化センター、2016年

上川通夫、撰関期仏教の転回、東方学会、  
日本教育会館、2016年

上川通夫、石巻神社『大般若経』への歴史

的道程、豊橋市美術博物館、招待講演、2016  
年

上川通夫、撰関期仏教の転回様式 舍利  
塔・経箱・仏像、大和文華館、招待講演、  
2016年

上川通夫、普門寺史料の出現と愛知文化遺  
産、名古屋大学大学院文学研究科附属人類文  
化遺産テクスト学研究センター主催公開セミナー、招待講演、名古屋大  
学文学部、2015年

上川通夫、平安仏教の特質、国際シンポジ  
ウム・古代東アジアの仏教交流、2015、國學  
院大學渋谷キャンパス

上川通夫、中世寺院と山・里・海、第52  
回中世史サマーセミナー、蒲郡市・ホテル竹  
島、2014年

〔図書〕(計10件)

佐藤長門、田中史生、上川通夫他、勉誠出  
版、古代東アジアの仏教交流、2018、  
1-357(183-198)

鈴木隆、西野真由、上川通夫他、芦書房、  
現代アジア学入門 多様性と共生のアジア  
理解に向けて、2017、1-220(15-28)

北澤菜月、梯信暁、上川通夫他、奈良国立  
博物館、特別展図録源信 地獄・極楽への扉  
、2017(1-328、243-245)

上川通夫、山田邦明、服部光真他、豊橋市  
美術館、石巻神社所蔵『大般若経』調査報告  
書、2016、1-255(3-8)

上川通夫、川畑博昭、大塚英二他、勉誠出  
版、日出づる国と日沈まぬ国、2015、  
1-378(162-180)

大津透、西本昌弘、上川通夫他、岩波書店、  
岩波講座日本歴史古代5、2015、  
1-350(217-248)

福岡猛志、梅村喬、上川通夫他、愛知県、  
愛知県史通史編1原始・古代、2015、  
1-898(612-632、635-640、746-785)

梅村喬、西宮秀紀、上川通夫他、三重県、  
三重県史通史編原始・古代、2015、

1-874(769-836)

久保智康、井上一稔、上川通夫他、高志書院、日本古代の山寺、2015、1-371(193-215)

上川通夫、『平安京と中世仏教』、吉川弘文館、2015、1-235

## 6 . 研究組織

### (1)研究代表者

上川通夫 (KAMIKAWA , Michio)

愛知県立大学・日本文化学部・教授

研究者番号：80264703